



巡礼その五十九 京都・兵庫（福知山・但東町・城崎）

2022年11月9日

今回は福知山と但東町の一石多尊石仏を見学する。5時起床、5時45分タクシーで恵比寿駅へ。品川6時35分のひかりで京都へ。今回も早朝なので大船軒のサンドイッチは買えない。無名のカツサンドを買う。iPadで「ドライブマイカー」の続きを見る。前回も借りたタイムズレンタカーを借りるためにヨドバシカメラへ行くが受付の場所も全て忘れて迷ってしまった。まずは福知山の奥の大江山にある鬼の交流博物館へ行く。今回はトヨタのヤリスでとても素晴らしい。200万円以下の大衆車であるが完成度がとても高い。市内から京都縦貫道路を通り、100kmはある。舞鶴大江ICで下りて一般道を進む。とても綺麗な宮川に沿って山の中に入っていく。元伊勢内宮皇大神社を通り、さらに奥に進む。近づくと鬼のオブジェが出てくる。鬼の交流博物館は山裾にあり、ここには大江山を棲家としていた酒吞童子を退治するため源頼光は藤原保昌や家来の四天王（坂田公時、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光）らと山伏に扮して大江山を目指す像が並んでいる。内部には鬼に関する面、瓦、などあらゆるものが展示されている。ここへ来た目的のもう一つはここで販売している「福知山の庚申塔」という冊子を手に入れるためだ。外にある巨大な鬼瓦を写してもと来た道に戻り元伊勢内宮皇大神社へいく。ここは伊勢に祀られる前、ここに一時的にいらっしやつた場所で宮津の丹後一宮元伊勢籠神社もそうだ。階段と坂道を10分ほど登ると、素朴な木製の鳥居があり、その奥に本殿が立っている。とても神聖な雰囲気巨木がたくさんあり、パワースポットになっている。ここからいよいよ福知山の庚申塔を回る。お昼になったがこの周りは食堂もコンビニも無く、諦めていたら偶然食堂があった。ここはおばさんが一人でやっており、メニューは麺類、カレー、丼、定食なんでもある。妻はスパゲティ、私はカレーを食べる。なかなかである。さらに庚申塔を見ながら但東町を目指す。道の駅があったので寄る。黒豆の瓶詰が東京の半額である。なるほどここは丹波なのである。明日回るところはコンビニも食べるところもないと思われるので、お

昼のパンを買う。もう時間がないので本日の宿シルク温泉やまびこへ向かう。ここは日帰り温泉をやっている。チェックインしてすぐに風呂へ行く。お湯はその名の通りシルクのように滑らかでとても良い。露天は少しぬるめでゆっくり入れる。打たせ湯も露天にあり、頭や肩、首に当ててマッサージする。夕食は個室で食べる。この時期は松葉蟹であるが、それは明日に食べるので、但馬牛のすき焼きを予約してある。テーブルにはとても美しい霜降りの肉がザクとともに並んでいる。鍋は鉄ではなく土鍋である。嬉しいことに割りしたと砂糖が置いてあり自分で作る。自分の味付けで自分のペースで食べられるのが嬉しい。八寸とお刺身が出る。全て美味しいが、マグロの刺身が美味しいのには驚いた。鍋に脂を塗って日本ネギを入れてその上に肉を並べる。砂糖を振って割りしたをかけて肉とネギだけを食べる。肉の美味しさに驚く。今まで食べたすき焼き用の肉の中でもベストである。厚さが厚くなく薄くなくたまらない。おそらく一人250gぐらいある。東京なら1万円以上する。但馬牛おそろべし。その後白菜、水菜、ささがきゴボウ、しいたけ、焼き豆腐、白滝などを食べ、今度はタマネギと肉だけを食べる。大満足である。日帰り温泉のホテルでこれだけのすき焼きを食べさせるのはすごい。一人18000円である。大満足で6000円のクーポン券があるので売店でヨーグルトや梨、蕎麦、かき餅などを買い、すぐに寝る。

11月10日

5時30分起床、6時に風呂へ行く。すでに5~6人の地元の人々が来ている。露天へ行くと霧で真っ白である。来るときに晴天であったが京都縦貫道路の所々ですごい霧が発生していた。サウナで地元の人に聞くとこの時期は川がすぐ近くを流れているためによく霧が出るが、9時ごろには消えてしまうと話してくれた。露天には源泉があり、37~38度でぬるいが気持ちいい。サウナの後に入るには最高である。サウナと源泉を3回繰り返して7時30分朝食へ。朝食もとても良い。ここは卵の名産地なのでやはり朝は生卵かけご飯である。おかずもシャケのバター焼きをはじめたくさんある。カレーもあるのでお腹いっぱいである。今日はお昼に食べるのは昨日買ったパンだけなので腹を固める。8時30分出発。今日はハードで庚申塔を60基見る予定である。但東町はとても良いところで霧も晴れ晴天で、紅葉が美しい。ススキも揺れている。棚田が美しい所であるが、今は何もない。小さな集落が沢山あります、そこに庚申塔が2~4基祀られている。ほとんどがメインの道路の裏にある旧道に堂を建てその中に、六地藏などと一緒に祀られている。ほとんどが赤い布が掛けられ、生花が供えられている。信仰の厚さがわかる。思った通りコンビニも食事をするところもない。昨日買ったパンを食べる。目的の一つ日本モンゴル交友館へ行くが休館日であった。今日は城崎温泉へ行くので3時には切り上げ西

村屋へ向かう。予想通り、15基ほど残ってしまったので明日に回す。城崎温泉までは川に沿って1時間ほどである。西村屋本館は少し奥にある素晴らしい旅館である。部屋は古い日本間であるが、露天風呂がついている。まずは外湯へ行ってみたいので温泉パスをもらい浴衣に丹前で洞窟で有名な「一の湯」へ行く。10分ぐらいで出て「マンダラの湯」へ行く。旅館に戻り、内湯へ行く。誰もいない。とても綺麗でいいお湯である。露天も気持ちが良い。一流の宿の良い点はタオルが全て供えてあるので手ぶらで行けるところである。部屋に戻ると夕食の準備ができていた。部屋食なのでテーブルと椅子を用意してもらった。松葉蟹2杯の蟹三昧である。来ました、とても大きなブルーのタグの付いた蒸し蟹である。タグには津居山港かみかぜ丸と書いてあります。中居さんの話では一人2杯は食べきれない人が居るので蒸し蟹は持って帰る人が多いそうだ。食前酒の蟹酒が出てくる。まずは足を取り、胴体の部分の身をほぐし、甲羅の味噌と混ぜて食べる。最高である。蟹酢が特に素晴らしい。酸っぱすぎず、甘すぎず、コクがあり、蟹の美味しさを引き出す。蟹のにぎりが出てくる。一貫であるが乗っている蟹の量が半端ではない。前菜の八寸が出てくる。これも美味しい。今度は蟹の刺身が出てくる。太い脚が3本で蟹味噌か、スタチの醤油で食べる。少しずつお腹がいっぱいになってくるので蟹の足が一番太い部分だけしか食べない。いつもは細い部分もハサミで切って食べていたが、だんだん大胆になってくる。ここで料理長のサービスのアカモク（モズクのような物）と珍味（魚の内臓か貝のひもか）が出る。さっぱりする。ここで炭が出てきて蟹を焼く。少し小さめの蟹一杯である。甲羅の中で味噌がグズグズ煮えている。また足をほぐして混ぜて食べる。もうかなりおなかがきつい。柚子のシャーベットが出てきてホッとすする。そして最後の蟹すきである。それでも食べてしまう。野菜が優しい。もうダメだと思ったら締め雑炊である。スープが絶品なので食べてしまう。最後に果物と甘いものが出て終了である。全て美味しかった。ちまちま出てくるのではなく、これが松葉蟹ですよとドンと出すところである。そして茹で、生、焼き、と全て蟹の味が違うのである。大満足で部屋の露天風呂へ入り、寝る。

11月11日

6時起床、7時に外湯の「鴻の湯」へ行き、旅館へ戻り内湯へ行く。男女入れ替えなので今日の露天はまるで昔の上海の裏町のように気に入った。朝食は部屋ではなく、ホールで食べる。朝食もとても美味しい。ここでもクーポン券6000円をもらい、お土産を4000円分使い、まだ3000円分残っている。クーポン券は使えるところがあまりないので大変である。今日但東町へ行くので昨日の宿シルク温泉やまびこの売店で使うことにする。但東町へ戻り、残っている庚申塔を見学する。お昼に丁度初日に行った食堂のそばを通ったの

で寄る。今日はトンカツ定食に、妻はラーメンにする。帰りがけに福知山の見つからなかった庚申塔に再度チャレンジする。郵便局で聞いてもよく分からず、集落にいたおばあさんに聞いたらなんと教えてくれた。入口が全くわからない神社の境内にあった。シルク温泉やまびこで国産蜂蜜 2800 円と但馬牛のモツ煮を買う。ちょうど時間になったので京都に戻りレンタカーを返して、穴子弁当を買ってひかりに乗る。京都駅は修学旅行の学生や観光客でごった返していた。